

先週は、初夏のような暖かい日があったかと思えば、3連休初日の23日は今季一番の冷え込みとなりました。遊園地の絶叫マシンのような激しいアップダウンに、身体が悲鳴を上げそうでしたが、この先の気温の予想では大きな冷え込みもなく、絶叫マシンがようやくゴールに近づいてきたように、季節もゆるやかに春の訪れに向かっていくようで、ほっとした気持ちになります。

先日、2月25日に京都市の、学問の神様でも知られる菅原道真^{まっつ}を祀る『北野天満宮』で、「梅花祭^{ばいかさい}」が開かれました。2月25日は、菅原道真の命日にあたり、梅花祭は、梅を愛したとされる道真をしのんで毎年開かれています。境内^{けいだい}に植えられた50種類、約1500本の梅の木は、例年よりも開花が早く、多くが見頃を迎えているそうです。



三中の近くでも、梅の花が枝いっぱい咲いています。梅の花は、桜の花ほど華やかで目を引くような存在感はないかもしれませんが、控えめで奥ゆかしい感じが、しみじみと人の心を引き寄せるような気がします。そんな梅の花を見ていると、「今は自分たちの美しさを見て」とばかりに咲き誇っているように思えます。

さて、今年^{うるうどし}は『閏年』。「閏」は中国の漢字で、成り立ちは、「門の中に王がいるさま」、「金銭や財宝があるさま」など諸説ありますが、暦^{こよみ}においては、1年の月数や日数が平年よりも多いことを意味します。

「閏」という漢字が中国から日本に伝わってきたとき、当時の日本人には読めませんでした。そこで、かたちの似ている「潤」の読み「うるう」「うるむ」をあてたといわれています。

この漢字を見て、魯迅^{ろしん}の『故郷』に登場する「閏土^{ルントウ}」のことを思い浮かべました。

僕の家で忙しい時期にだけ働きにくる「忙月^{マンユエ}」の人の息子、「閏土」。僕と歳も近く、閏月の生まれで、五行説の土に欠けるので、彼の父は名前に土を補って「閏土」と名付けた。閏土は、僕の知らないふしぎなことをたくさん話してくれた。しかし、久しぶりに再会した幼なじみは、かつて僕の英雄だった輝きを失っていた。

そこで、今年度最後の問題です。少年のころ、閏土が僕に話したふしぎなことで、あてはまらないのは次のうち、どれでしょう。

- ① 月夜の畑でスイカを盗んでいくアナグマのこと
- ② カエルみたいな二本の足で跳ぶ跳ぶ魚のこと
- ③ 大雪の日にわなを仕掛けて鳥を捕る方法



前号のクイズの答え、今村 翔吾さんが直木賞を受賞した、時代小説『塞王^{さいおう}の楯^{たて}』のタイトル、『塞王の楯』の「楯」が具体的に表しているものとは、②のどんな攻めからも城を守り抜く頑強^{がんきょう}な石垣でした。

今号の問題の答えをみつけるヒントの本は、分類番号923、「国語の教科書に関連する本」の特設コーナーにあります。1年生、2年生にとっては、国語の予習にもなります。ぜひ、読んでみてください。

図書室からのお知らせ



3年生のみなさんは、本日をもって貸し出しは終了となります。今まで図書室のご利用、ありがとうございました。

これからも、本とのすてきな出会いが、たくさんあることを願っています。

1、2年生の本の貸し出しは**3月8日(金)**が最終日になります。

3月18日(月)までに返却をお願いします。



旅立ちの季節。卒業や進級。そして、入学やクラス替え。別れはときに悲しく、寂しくもあるけれど、新しい出会いもあります。期待と不安が入り混じる新しい生活には、どんな物語が待っているのでしょうか。今回は、まず、「卒業」がテーマになっている小説2作品を紹介します。桜のピンクが背景の表紙もすてきです。

『卒業 君がくれた言葉』
(スターツ出版文庫)



宇山佳佑をはじめ5人の作家が描く、卒業を迎えた中高生の物語。
「君がいてくれたから、苦しい日々も乗り越えられた。そんな君に、最後に伝えたいことがあるんだ。」「弱い自分から、ダメな自分から、今日で卒業しようと思った……。」
大好きな人を失った悲しさや前に進めない自分からの卒業。「君がくれた言葉」は、きっと読者にも前向きに生きる勇気をくれることでしょう。

『天国までの49日間 ~卒業~』 櫻井 千姫/著
(スターツ出版文庫)

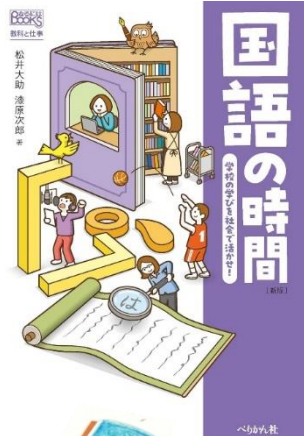


「わたし、榊くんのことが好きなの！……これから四十九日間、成仏するまで私の仮初の恋人でいてください！！」それは私も同じ。一方通行の片思い。かなわないとわかっている。でも、今日こそ思いを伝えて、この片思いから卒業する。
この先の人生に幸あれと、登場人物たちにエールを送りたくなる一冊です。

職業について考えよう！

『国語の時間 学校の学びを社会で活かせ！』

松井 大助・漆原 次郎/著 (ペリカン社)



「国語」の学びが仕事や社会でどのように役立つのかを作家や声優、弁護士やウエディングプランナーなどの職業人にインタビュー。
生き方をより深くしたり、お客さまの力になったりなどの職業でどんな国語の力が必要とされているのか、幅広い分野で役立つ「国語」の魅力を伝えています。

身近なところにこんな秘密が！

『パッケージデザインのひみつ』

公益社団法人 日本パッケージデザイン協会/監修



パリパリ海苔のおにぎりにもパッケージの秘密が！

表紙はシンプルですが、「こんなところにも！」と感心の声もれるくらい、身近なもののパッケージに入れられたデザインの工夫があふれています。



図書館が舞台の小説

〈日本と外国の2つの小説を紹介〉



『図書館のお夜食』

原田ひ香/著 (ポプラ社)



開館時間が夕方7時から深夜の12時までで、亡くなった作家の蔵書が集められた「夜の図書館」。
館内の食堂では、まかないとして実在の本に登場する料理が出てくる。
料理の味を想像しながら、この図書館での出来事をお楽しみください。

『図書館がくれた宝物』

ケイト・アルバス/作 (徳間書店)



2021年
ニューヨーク公共図書館
ベスト・ブック・オブ・ザ・イヤー(児童書部門)

第二次世界大戦下のイギリス。身寄りをなくした三人のきょうだいは、疎開先でつらい日々を過ごしたが、唯一ほっとできる場所が図書館だった。
本と図書館司書と子どもたちの心あたたまる物語。

料理愛好家
平野レミさんの料理マンガで楽しくクッキング！

